

## 利用者利便の向上等に資する規制見直しの分類案について

2016. 09. 05

エムアイコンサルティンググループ

大上二三雄

### 1. 目的

(ア) 今回の小委員会は、訪日観光客の劇的な増加や2020年の東京オリンピック開催という状況を踏まえ、我が国にとって極めて重要な航空行政に関して、以下に記する目的をもって設置されたものと理解している。

- ・航空を取り巻く状況に大きな変化が生じていることを踏まえ、
- ・規制・制度の見直しを通じて利用者・事業者双方の価値向上を図るため、
- ・幅広く航空業界内の業務提供者に意見を求め、検討を行う。

(イ) 当委員会は、専門的な知見を有する者が利用者と事業者双方の事情を斟酌しつつ、行政当局と共に一段高い視点から将来的なあるべき姿を見据えて、議論する重要な機会であり、提出された意見を踏まえつつ「将来的なあるべき姿」の観点から、テーマをリストアップすること、そしてテーマの重要度と当委員会に於ける取り組みの妥当性を判断し、テーマを絞って深く検討を行うことが必要である。

(ウ) ついては、事業者からの意見を的確に捉え、その本質を洞察することを可能にするためには事前に分類を考えることが必要と考え、そのたたき台を作成した。

### 2. 規制・制度の見直しをもたらすドライバー

(ア) 以下に、規制・制度の見直しをもたらすドライバーを、航空行政に関する昨今の動きを踏まえつつ、SEPTEmberモデルを用いて抽出した。

- ① Social(社会): 利用者意識変化、訪日観光客増加、英語化、テロ対策、東京オリンピック、正規雇用拡大、、、
- ② Economy(経済): 地域振興、航空を含む観光産業振興、空港民営化、シェアエコノミー、燃料費、LCC旅客の増加、、、
- ③ Policy(政治): 観光ビジョン、空港運営民営化、地方創生回廊、、、
- ④ Technology(技術): 航空機運航・整備、運航管制、保安技術、周辺技術、、、
- ⑤ Environment(環境): バイオ燃料、騒音、温暖化、、、

(イ) 上記を改めて俯瞰してみると、航空業界における規制・制度の見直しは社会・経済要因を中心に、主として以下の分類に大別できるのではないか？

- ① 社会・経済要因がもたらす規制・制度の見直し
- ② 社会・経済要因 $\leftrightarrow$ 技術要因(航空関係)がもたらす規制・制度の見直し
- ③ 社会・経済要因 $\leftrightarrow$ 技術要因(非航空関係)がもたらす規制・制度の見直し
- ④ 技術要因(航空関係)がもたらす規制・制度の見直し
- ⑤ 技術要因(非航空関係)がもたらす規制・制度の見直し

(注)技術要因に関しては、安全部が所管する航空輸送に特化した技術(航空機従事者資格、製造・検査・整備、運航、安全情報・安全管理、空港・ヘリポート、、、)と、航空に関係はするが一般的な技術(AIやインターネット高度利用などのIT、自動運転、再生可能エネルギー、、、)を区別した。

(ウ) 各事業者からの要望を、上記の分類で仕分けすることで以下の効果が期待出来る。

- ① 社会・経済要因を踏まえた検討を行うことで、よりの確な優先順位やかかる効果とコストの問題が明らかになる。
- ② 技術的要因は含まれないが重要な項目についても、補足することが可能になる。
- ③ 社会・経済要因の側面を踏まえた議論を行うことで、よりの確な課題の設定が可能になる(要望が無い重要なものが明らかになる可能性)。
- ④ 今回の小委員会に於いて議論すべき内容と範囲、及び今後の扱いが明確となる。

### 3. 提案

規制の見直し要望 $\Rightarrow$ 規制の見直し課題の設定においては、最上位に上記の分類を施したうえで、精査をする。